

10月10日、英国で生まれたがん患者のための相談施設「マギーズ・キャンサー・ケアリング・センター」(マギーズセンター)の一つとして、東京・豊洲(東京都江東区)に「マギーズ東京」がオープンしました。日本初のマギーズセンターです。

マギーズセンターは病院の建物の外にあるため気軽に訪れることができ、患者や家族に居心地の良い空間を提供するのみならず、患者に寄り添いながらさまざまな状況で必要な意思決定を支援するなど、既存の医療機関にある「がん相談支援センター」や、患者同士が集まる「がんサロン」などとは異なる新たな患者支援の形になると期待されています。

私がその存在を知ったのは2010年です。初めは「同じような施設が金沢にあつたらしいな」とあこがれる程度でした。しかし、この運営でも取り上げ

ドクター元ちゃんになる がん

西村 元一
金沢赤十字病院副院長



■丸山博撮影

院外でゆったり本音を

医療者・患者交流の場作り

てはいるように、医療者とがん患者、その家族との間のコミュニケーションの難しさを感じ

ることが増え、病院の外、つまり

生活の中に医療者と患者、家

族との交流の場があり、医療者

も白衣を脱いで参加して「本音」

で対話ができる、医療者と患

者、家族、住民のズレを小さく

できるのではないかと考え始め

ました。

私は10年、金沢の仲間たちと

ともに「がんとむきあう会」を

設立し、がんと向き合いながら

も病人ではなく、その人らしく

いることができる場作りを目指

しました。

金沢マギーには、毎回10人あ

まりの患者、家族が集まり、さ

まざまな悩みなどを話します。

そこでよく出る訴えに「がん患

者活動に取り組んでいます。その仲間たちと「金沢一日マギーの日」と名付けたイベントを企画し、医療者と患者、家族が交流できる機会を毎年作ってきました。

15年3月、自分自身ががん患者になりました。そして、他の患者の皆さんと話してみると、そのような「場」の必要性をさらに痛感することになりました。私の病状が落ち着いた15年た。私の病状が落ち着いた15年

12月からは毎月2~3回、仲間

が所有する金沢市内の町家の一

部を借り、「金沢マギー」を定期的に開催しています。

金沢マギーには、毎回10人あ

まりの患者、家族が集まり、さ

まざまな悩みなどを話します。

そこでよく出る訴えに「がん患

者があつくりと安心して話した

り、話を聞いてもらえたしする

場所がない」があります。最近

は病院で開く「がんサロン」が

各地に広がっていますが、やは

り「病院の中」という環境のた

め「圧迫感」があり、自由な話

はしにくいようです。

街中にもいろいろなサロンの

ようなものがあります。しかし、

多くはがん以外の病気や生活の

悩みにも対応しているため「が

んの悩みについて、どれくらい

分かってもらえるか不安で、あ

まり自分のことは話せない」と

いう人がいます。患者会も増え

ていますが、「医療者が同席し

ていない中で話している」と、患

者同士の一方的な意見が多くな

つて心配になる」という声を聞

きます。

そこで、私たちはより積極的

な取り組みを計画することにし

ました。

にしむら・げんいち 1958年金沢市生まれ。83年金沢大医学部卒。金沢大病院などを経て、2008年金沢赤十字病院第一外科部長、09年から現職を兼務。13年から「がん患者」や医療者が集うグループ「がんとむきあう会」代表。

■次回は11月27日掲載